

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【1】

【解答欄】

1)

さくらさんは、田中さんのためと考えてはいたが、実際には、自分の実習を満足させるための手段になっていたのではないかと考えられる。睡眠時間を削って、頑張ってパンフレットを作成していたが、指導における目標を、田中さんと共有せず、田中さんのニーズも確認していなかった。田中さんの考える主訴やニーズとは異なるものになっていたのではないかと考えられる。

2)

田中さんは、実習開始当初は、さくらさんが一生懸命に行っていたため、それに応えるように、合わせていたと考えられる。しかしさくらさんの押し付けに、我慢ができなくなったと思われる。さくらさんの対応や言動に、指導を受けている田中さんは、自己否定されたと感じた可能性もある。田中さんとしても頑張って、糖尿病の改善に取り組んでいたと思われるが、さくらさんが、田中さんのそのような気持ちを理解しようとしていなかったことが考えられる。

3)

まず、さくらさんよりも長く生きてきた田中さん（68歳）の生き方や価値観を尊重する気持ちを言葉や態度で表したり、田中さんがもっている強みを支持したりすることが大切である。そのために十分なコミュニケーションをはかりながら、共同作業として、生活の改善計画を進める方法を検討することが必要と思われる。

また、実習生としては、苦しんでいる患者さんからは拒否されることもある。そのような場合、相手や自分自身を責めるのではなく、自分の言動を冷静に論理的に振り返り分析することで、今後につなげることも大切である。また先輩ナースに相談し、助言を仰ぐことも重要と思われる。

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【2】

【解答欄】

設問1

人間は文字で書かれた言語情報を見ると、すぐに意味を解釈しようとするので、意味を抜きに単なる文字列として記憶することが苦手である。

設問2

人間は文字列に対して意味を解釈し、テキスト全体の意味を抽出しようとする。意味に基づいて記憶しようとする。一方、AIは文字列の意味を考えるとなく、文字列そのものを正確に、しかも膨大な量を記憶することができる。

(受験番号

)

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【3】

【解答欄】

「正しい」という言い方には、「常に正しい」という、断定的で、絶対の正解があるような響きが含まれている。一方「説得力がある」という言い方には、いつでも絶対に、これが正しいというのではなく、他と比較すると「より正しい」と判断できるという意味合いが含まれていると思われる。したがって「いまある判断材料をもとにすれば」という前提に立っている。また「扱っている解釈だけを相互比較すれば」という前提もある。別な判断材料が出てくれば、違う判断になるかもしれない、という可能性が暗に含まれていると考えられる。

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【4】

【解答欄】

1)

(c) の表し方がよいと思われる。

(a) は、縦軸が0から始まっていない。そのため、実際以上に、キャンペーンの効果が出て、売り上げがあがっているというように捉えられる。

(b) は、縦軸が0から始まっているが、すべて10刻みになっているため、グラフからは、売り上げの増加はそれほど劇的ではない、と捉えられる。

(c) は、縦軸が0から始まり、途中が省略されていて、それを明示しているため、キャンペーンによる効果の量が見やすくなっている。

2)

図中に矢印が書かれているため、2016年から2023年にかけて、右肩上がりのように見える。しかし、実施には、2021年には減少し、また2020年、2022年、2023年は同じ数値である。図中に書かれている太い矢印によって、図を正確に捉えられなくなっている。

3)

左側の「A社にお任せ！」という図は、縦軸の12億円から下が省略されているため、業績が大きく急成長しているように見える。また3Dグラフによって、手前の方の最近のデータが大きく表示されていて、業績が実際よりも伸びているように見える。右側の参考図は、縦軸の0が省略されていず、また、平面の棒グラフで書かれているため、実際の様子を表していると思われる。A社が自社の業績をアピールしたいのであれば、見栄えがよい左側の図を使うと考えられるが、過度に業績が伸びているような図を使用することは避ける方がよいと思われる。図を見る時の我々の目を鍛える必要もある。

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【5】

【解答欄】

設問

この教授は、教える相手を教えても分からない人と、分かっているので、教える必要のない人と二分して考えている。これは単純すぎる見方であると思う。世の中のすべての人がこの二種類にきれいに分かれるわけではない。論文を書いたことがなくとも、教えればわかる学生はいるだろうし、逆に、論文を書いた経験のある人でも、まだ書き方を十分に習得していない人もいると思われる。

(受験番号

)

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 専門科目 言語聴覚・英語 ） 試験時間：（ 30分 ）

【設問記号を入力してください】

【解答欄】

問1：言語障がいには軽度から重度まで幅広く存在する。1970年に英国で行われた調査では、0.05%が深刻な障がいを有すると推定された。しかし、読み書きや綴りの困難を含めれば2～3%に及ぶと考えられる。世界では数百万人が影響を受けており、その生理学的・言語学的原因の解明と改善策の確立が研究の目的である。

問2：The responsibility of a speech therapist is to help patients with language disabilities live as normally and independently as possible. To achieve this, therapists must possess not only a solid foundation in linguistics and clinical practice but also the ability to apply that knowledge to the specific needs of each individual patient, providing appropriate and effective treatment. Their ultimate goal is to enhance the well-being of individuals and support their full participation in society. In pursuing this goal, speech therapists must recognize that language disabilities vary widely in type and severity, and therefore require flexible, patient-centered approaches.

(受験番号

)

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【設問1】

【解答欄】

- A 「完全共有条件」
- B 「非共有→共有」や「完全非共有条件」
- C 反する
- D 他者と注目するものが完全に一致すること、すなわち意図が完全に一致することが、必ずしも、ロボットの人らしさを高めるわけではないことが示された。

【設問2】

- E 「情動一致条件」や「情動一致+接触条件」

【設問3】

「人らしさ」を感じるかどうかについての質問項目である「このロボットは心をもっていそうだ」「このロボットは感情があるように思う」の結果では、喜び・悲しみの両方で、「情動一致条件」「情動一致+接触条件」が高く、なかでも後者が最も高い結果であった。このことは、身体の動きや接触することで相手と情動を共有することは、人が、ロボットに対して、人らしさを感じる条件である可能性を示すものである。

その一方、人らしさの得点が最も高かった「情動一致+接触条件」で、喜びに関してのみ、怖いに関する得点が最も高くなった。これは、「このロボットは心をもっていそうだ」「このロボットは感情があるように思う」の結果とは矛盾する結果である。

ロボットが他者と身体動作や接触によって共感的なふるまいをすることは、ロボットの人らしさを生み出す重要な条件であるが、その一方で、人は、ロボットの共感的ふるまいに恐怖感・嫌悪感を抱く可能性があることも示された。

ロボットの共感的ふるまいによって、人らしさを感じる気持ちが強くなるほど、ある時点で、やはり人とは異なるのだということを意識し、それが恐怖を感じさせるようになるのかもしれない。この実験のロボットの場合は、人らしいふるまいとロボットの見た目、動作とのギャップがそうした感情を引き起こした可能性が考えられる。

2026年度大学院入試問題（2025年9月10日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【設問4】

【解答欄】

★採点のポイント

(1) 内容について：

- ・問題文に述べられているそれぞれの実験結果が正確に読み取ることができ、それらの情報を統合し、ロボットが「人らしい心をもつための条件」についての考察が簡潔にまとめられているかどうか。
- ・ロボットと共生していくための条件について色々な視点から柔軟に考えることができているか。
- ・上記の学生の考えた条件は、先の実験についての考察と論理的に矛盾なく結びついているか。
- ・論旨が明確であるか。

(2) 形式について：

- ・誤字脱字がないか。
- ・明解な文章であるか。
- ・文法的な誤りはないか。